

はじめに

この防災ハザードマップは、各種災害(洪水・土砂災害・ため池災害・地震・津波)に対する備えや対処方法等の災害時に役立つ情報をまとめた防災ガイドと、各種災害が発生した場合における危険箇所等をまとめた防災マップ(ハザードマップ)で構成されています。ハザードマップは災害の危険性が高い箇所を示したものですが、危険箇所以外は安全であるということを示したものではありません。地震による被害や内水氾濫などは、どこでも起こる可能性があります。想定外の災害が起こることもあります。もしもの時に備え、この防災ハザードマップを活用して次の項目を確認し、普段から目につきやすい場所に保管しておきましょう。

改訂にあたって

この益田市防災ハザードマップ【保存版】は、平成31年3月に発行した防災ハザードマップから、主に以下の内容を変更または追記しています。

改めて内容をご確認いただき、各家庭や事業所での防災対策にご活用ください。

【主な変更内容】

- ・令和3年5月より運用が開始された警戒レベルを用いた避難情報の発令などに関する情報を反映しました。(P13参照)
- ・新たに島根県が令和3年1月及び令和4年9月に指定した防災重点農業用ため池について、ため池ハザードマップを掲載しました。(P8、P31～P78参照)
- ・島根県が令和5年12月に指定した中小河川の洪水浸水想定区域を洪水・土砂災害ハザードマップ上に反映しました。(P26～P78参照)
- ・新たに内水ハザードマップ(内水浸水想定区域図)を追加しました。(P79～P80参照)
- ・島根県が令和5年3月に指定した津波災害警戒区域を津波ハザードマップ上に反映しました。(P83～P92参照)
- ・新たにマイ・タイムラインについて追加しました。(P93～P94参照)

目次

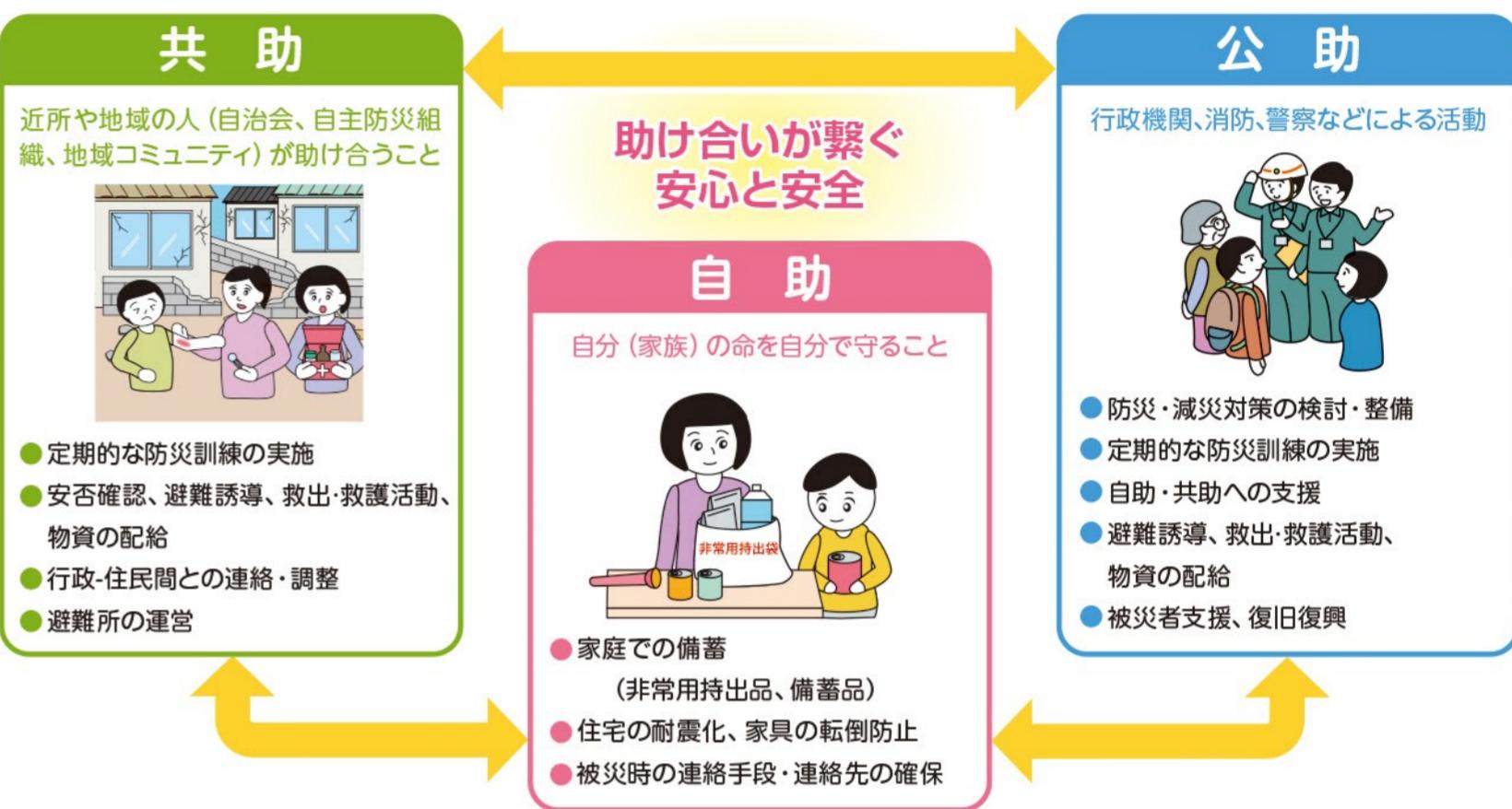
～防災ガイド～

| | | | |
|---|-----------|--|------------|
| ● 日頃からの備え | — 2 …… 4 | ● 避難行動について | — 13 …… 14 |
| ・ 自助、共助、公助 ・ 地域の防災活動 ・ 非常用持出品・家庭内備蓄 ・ 風水害への備え | | ・ 災害警戒レベルとるべき避難行動 ・ 命を守るために自主避難 ・ ハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう | |
| ● 水害から身を守る | — 5 …… 6 | ● 防災情報について | — 15 …… 16 |
| ・ 雨の降り方と雨量 ・ 洪水災害とは ・ 洪水のおそれがあるときの避難行動 | | ・ 防災情報の入手先 ・ 災害時の連絡方法 | |
| ● 土砂災害から身を守る | — 7 | ● 避難生活について | — 17 …… 18 |
| ・ 土砂災害とは(種類と前兆現象) ・ 土砂災害の警戒区域 ・ 避難時に注意すること | | ・ 避難生活 ・ 避難所生活の心得 ・ ペットの災害対策 | |
| ● ため池災害から身を守る | — 8 | ● 避難所一覧 | — 19 …… 25 |
| ・ ため池と地域を守るための4つの行動目標 ・ 防災重点農業用ため池一覧 | | ● マイ・タイムライン | — 93 …… 94 |
| ● 地震から身を守る | — 9 …… 11 | ～ ハザードマップ～ | |
| ・ マグニチュードと震度 ・ 自宅や建物内にいる場合 ・ 外出先にいる場合 ・ 津波から身を守る ・ 地震への備え | | ● 洪水・土砂災害・ため池ハザードマップ | — 26 …… 78 |
| ● 火災対策 | — 12 | ● 内水ハザードマップ | — 79 …… 80 |
| ・ 防火のチェックポイント ・ 火災が起きてしまったら ・ 通電火災を防ぐ | | ● 地震ハザードマップ (揺れやすさ、液状化の危険度) | — 81 …… 82 |
| | | ● 津波ハザードマップ | — 83 …… 92 |

日頃からの備え

○自助・共助・公助

過去の災害から、特に大規模災害発生直後は、行政機関や消防、警察などの「公助」の人手が不足し、迅速な救出・救助活動が難しくなることが想定されます。日頃のご近所付き合いを大切にし、もしもの時に助け合える「共助」の関係を築いておきましょう。また、各家庭でも日頃から積極的に防災対策に取り組み、自分や家族の命を自力で守れる「自助」の力を育てていきましょう。この「自助・共助・公助」の3つで、相互に助け合い成長し続ける「災害に強いまちづくり」に一緒に取り組んでいきましょう。



○地域の防災活動

○○自主防災組織に参加しましょう

防災における共助の要となり、住民が連携して防災活動を行う組織が自主防災組織です。災害時には、いざという時の自らの備え「自助」はもちろん、住民が協力して地域を守る「共助」が重要です。

○○自主防災組織の活動

| | |
|---|---|
| 平常時 | 災害時 |
| ○地域内の防災点検 災害発生時、地域に被害の拡大につながる箇所はないか、また一人暮らしの高齢者世帯など、避難を必要としている人はいないか確認しましょう。 | ◆初期消火 火の始末、消火をする |
| ○防災資機材等の整備 災害発生時に必要とされる資機材を、地域の実情に応じて準備しましょう。また、定期的に点検や使い方を確認しましょう。 | ◆安否確認 避難者の把握 |
| ○防災知識の普及 防災訓練や防災講習会への参加の呼びかけなどを通して、住民一人ひとりが防災に関心をもち、準備するよう取り組みましょう。 | ◆避難誘導 避難所への避難、要配慮者の支援 |
| ○防災訓練の実施 災害を想定した避難訓練や消火器の使用方法、応急手当など、防災活動に必要な知識や技術の習得に取り組みましょう。 | ◆救出や救護 負傷者の救出、救護所への搬送など |
| | ◆情報の収集や伝達 正確な情報の収集とその伝達 |
| | ◆避難所運営の協力 水や食料などの配給、炊き出しなどの給食・給水活動など |

日頃からの備え

●非常持出品・家庭内備蓄

いつ起こるか分からない災害の被害を最小限にとどめるために、最低限そろえておくべきものを事前に確認し、災害に備えましょう。

●非常持出品・家庭内備蓄の準備

大きな災害が発生し、電気・ガス・水道などのライフラインが止まったときに備え、最低3日間程度は自力で生活できるよう日頃から準備しておくことが大切です。

避難の時に両手が使えるようにリュックで準備しましょう。

| | | |
|---|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 貴重品 ・現金 ・印鑑 ・マイナンバーカード ・貯金通帳 ・免許証など | <input checked="" type="checkbox"/> 飲料水・食料品 ・飲料水 (一人一日あたり 3リットルが目安) ・缶詰やレトルトのおかず ・アルファ米 ・レトルトのごはん ・ドライフーズ | <input checked="" type="checkbox"/> 照明・情報端末など ・懐中電灯 ・ランタン ・ラジオ ・充電器 (スマートフォン・携帯用) ・インスタント食品 ・お菓子 ・乳児用ミルクなど |
| <input checked="" type="checkbox"/> 衣類 ・下着 ・防寒着 ・靴下など | <input checked="" type="checkbox"/> 応急医薬品 ・ぱんそうこう ・傷薬 ・常備薬(鎮痛剤など) ・処方薬(持病のある方) ・マスク ・手指消毒液 ・体温計など | <input checked="" type="checkbox"/> 生活用品 ・洗面用具や化粧品 ・タオル ・ウェットティッシュ ・ビニール袋 ・生理用品 ・おむつ ・携帯トイレなど |

●その他必要な物品

家庭環境によっては、上記の物品以外にも用意しなければならない物があります。以下の例を見ながら考えてみましょう。

◆乳幼児がいる家庭の例

ミルク、哺乳瓶、離乳食、スプーン、おむつ、洗浄綿、おぶい紐、バスタオル
またはベビー毛布、ガーゼ、バケツ、ビニール袋、石けんなど



◆妊婦がいる家庭の例

脱脂綿、ガーゼ、サラシ、T字帯、洗浄綿、新生児用品、ティッシュ、
ビニール風呂敷、母子手帳、新聞紙、石けんなど

◆要介護者がいる家庭の例

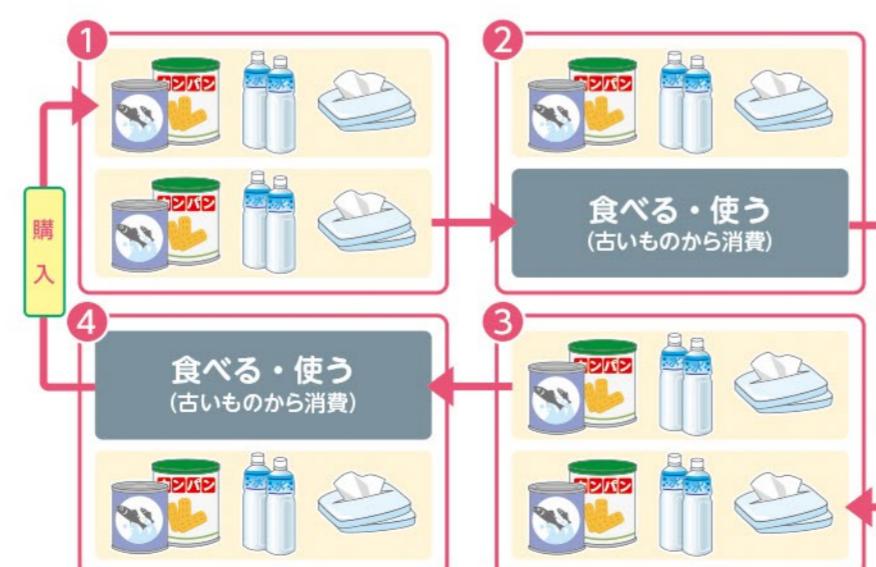
着替え、おむつ、ティッシュ、障害者手帳、補助具などの予備、常備薬(お薬手帳)など

●ローリングストック法による 食料品・日用品備蓄

日頃から自宅で利用しているものを少し多めに備えることで、災害時に自宅である程度生活することが可能となります。

常温保存が可能なものの(カップめん・袋ラーメン等)や、そのまま食べられるレトルト・加工食品(ごはん・おかず・汁物等)、賞味期限が長いものなど普段から食べられるものが良いでしょう。またトイレットペーパーなどの日用品も余分に1セット用意しておきましょう。

必要分より多めに備え、日常の中で随时消費補充する備蓄方法なので特別な準備は必要ありません。このような備蓄方法を「ローリングストック法」といいます。



●風水害への備え

風水害による家屋の被害を抑えるために、日頃から家の周りの点検や整備を行いましょう。

●家屋の風水害対策

屋根

瓦のひび・ずれなどはないか。
トタンのめくれ・はがれはないか。

雨どい・雨戸

雨どいに落ち葉や土砂が詰まっていないか。継ぎ目のはずれや塗装のはがれ、腐りはないか。雨戸にガタツキやゆるみはないか。

ブロック塀

ひび割れや破損箇所はないか。

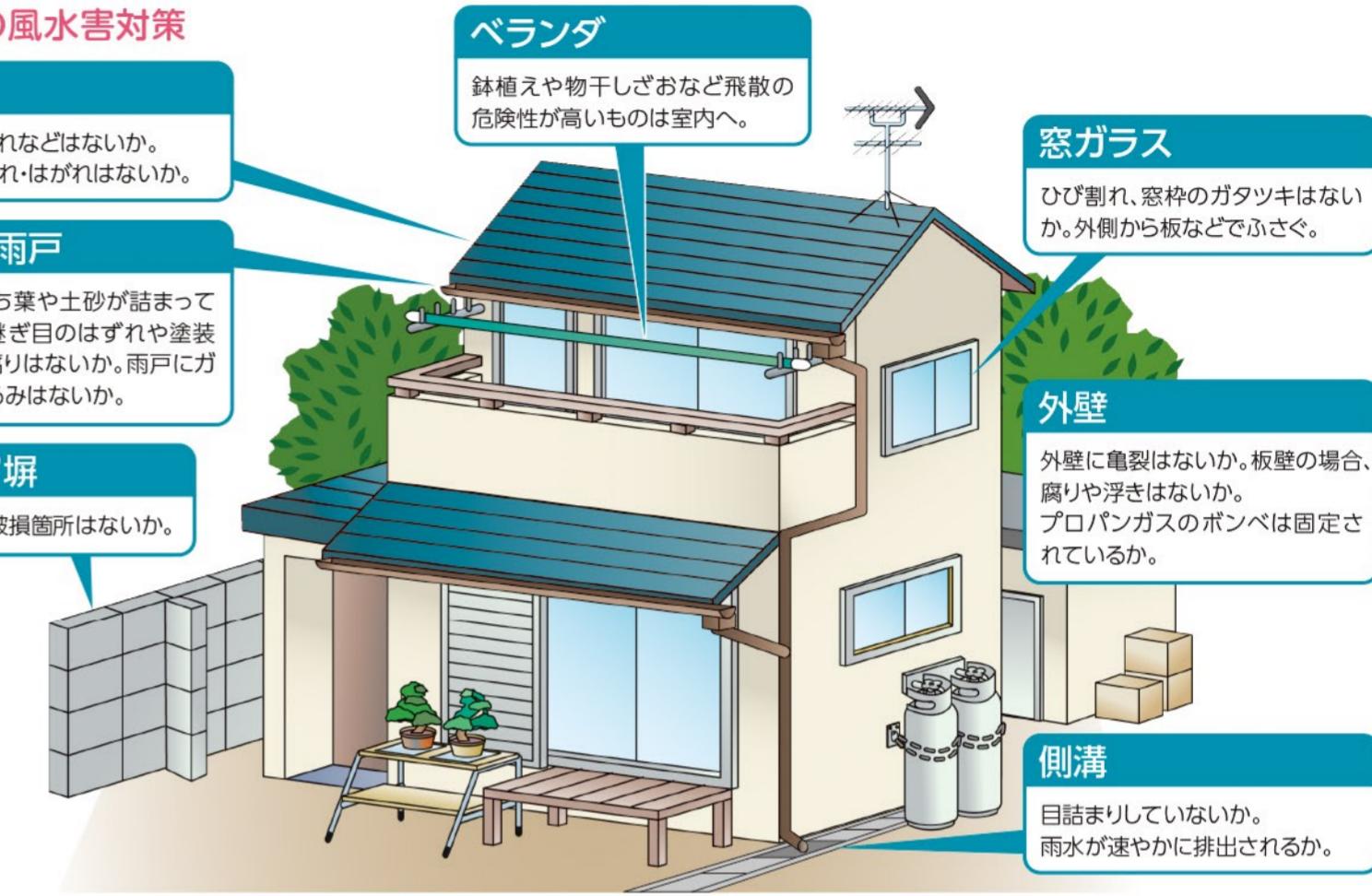
外壁

外壁に亀裂はないか。板壁の場合、腐りや浮きはないか。

プロパンガスのボンベは固定されているか。

側溝

目詰まりしていないか。
雨水が速やかに排出されるか。



●住宅の浸水被害を防ぐためには

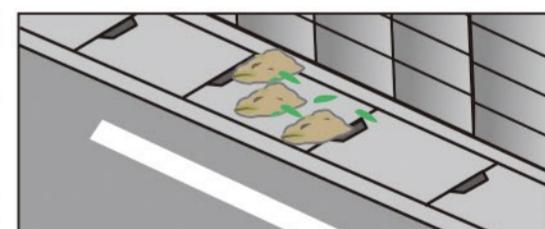
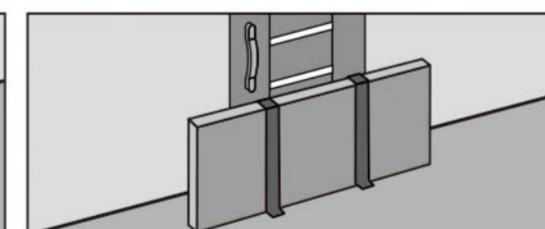
雨水が浸入しないように土のう、止水板を設置することや、普段から道路の側溝などを掃除して、雨水が排水できるようにしておことで、住宅の浸水被害を防ぐことができます。

・土のう

出入り口にブルーシート等で包んだ土のうを置き、雨水の浸入を防ぎます。

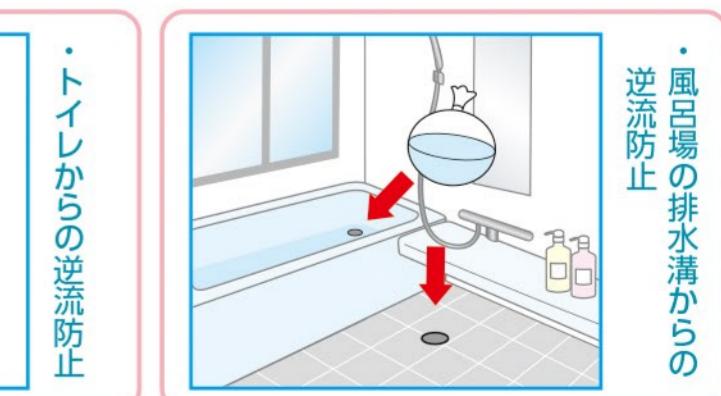
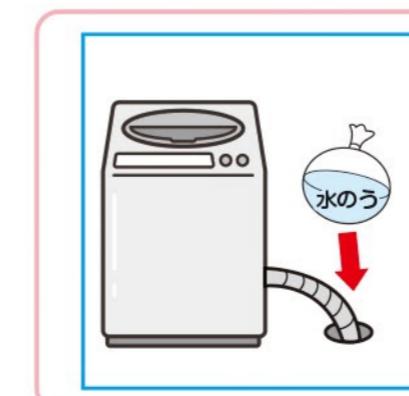
・止水板

出入り口に長めの板などを設置して、水のうなで固定して、浸水を防ぎます。板がない場合は、テーブル・タンス・ロッカー・畳などで代用することも可能です。



●思わぬ場所からの浸水を防ぎましょう

住宅の周辺が浸水すると、下水が逆流して、トイレ、風呂場や洗濯機の排水口などから水が噴き出ることがあります。ビニール袋に水を入れた水のうを置くと、逆流を抑える効果があります。



・風呂場の排水溝からの逆流防止

水害から身を守る

気象台からの気象情報は、市町村ごとに発表されます。万一に備え、市民の皆さんも日頃からテレビ、ラジオなどで気象情報を確認するように心がけましょう。

●雨の降り方と雨量

降っている雨を観察することで、だいたいの雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を知っておきましょう。

| 雨の降り方 1時間雨量 (mm) | やや強い雨 10~20mm | 強い雨 20~30mm | 激しい雨 30~50mm | 非常に激しい雨 50~80mm | 猛烈な雨 80mm 以上 |
|------------------------|----------------------|---------------------|--|------------------------|----------------------------|
| 人の受けける イメージ | ザーザーと降る | どしゃ降り | バケツをひっくり返したよう に降る | 滝のように降る (ゴーゴーと降り続く) | 息苦しくなるような圧迫感 があり、恐怖を感じる |
| 人への影響 | 地面からの跳ね返りで足元 がぬれる | 傘をさしてもぬれる | 傘はまったく役に立たなくなる | | |
| 屋内 (木造住宅の場合) | 雨の音で話し声がよく聞き 取れない | 寝ている人の半数くらいが雨に気がつく | | | |
| 屋外の様子 | 地面一面に水たまりができる | 道路が川のようになる | 水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる | | |
| 車に 乗っていて | ほとんど影響なし | ワiperを速くしても 見づらい | 高速走行時、車輪と路面の 間に水膜が生じブレーキが 効かなくなる | 車の運転は危険 | |

●避難情報の種類と避難行動及び水位と洪水予報の関係

河川の水位が上昇し、氾濫の危険性が高まつた場合は、河川を管理する国や県、気象台が共同で、水位や防災に関する情報を発表します。市は、この情報をもとに、雨の降り方などを総合的に判断した上で避難指示等の避難に関する情報を発令します。



●洪水災害とは

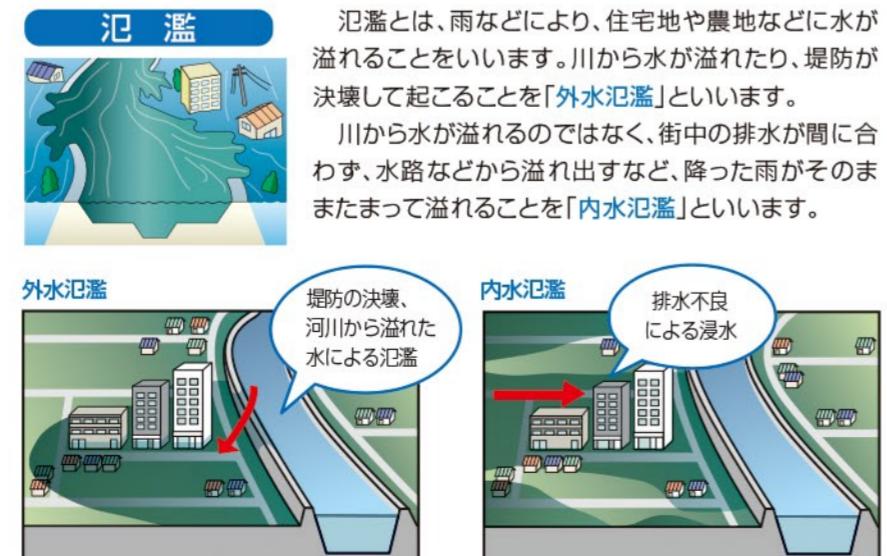
洪水 洪水とは、雨などにより川の水量が普段より著しく増えた状態をいいます。

河原へ行くと広い敷地のわりに中心部しか水が流れていません。これが通常の姿です。

ところが、川幅いっぱいに水がおよせると、広い河原も水の下にかくれて見えません。このように異常に水が増えたときを「洪水」といいます。

水害 水害とは、水によって起こる災害のことで、外水氾濫も水害と呼ばれます。

ただし、海水による水害の場合は、高潮灾害、津波灾害といった呼び方をします。



大雨による浸水の危険があるときは、自ら情報を入手し速やかに避難をしましょう。普段から安全な避難経路を確認しておき、避難時は助け合い、落ち着いて行動しましょう。また河川の近くやアンダーパス、地下空間は避けましょう。

●洪水のおそれがあるときの避難行動

【危険な場所に近づかない】

河川などの様子を見に行くなどの行動は控えましょう。またアンダーパスや周囲より壅(よど)んでいる場所などは冠水のおそれがあります。局地的な豪雨により小さな水路等はあふれる可能性もあります。危険な箇所を避ける避難経路を日頃から確認しておきましょう。



【情報収集と自主避難】

テレビ・ラジオ・インターネットなどで気象、災害、避難に関する情報を入手しましょう。洪水の危険が迫ったときは、市や消防団からの避難の呼びかけがあります。また、指示がなくても危険を感じた場合は自主避難を心がけましょう。



【あわてずに避難】

動きやすい服装で運動靴を履いて避難するようにしましょう。避難先を確認し、家族や知人などに避難したことを連絡しておきましょう。



【協力あって避難】

単独での避難はできるだけ避け、避難が困難な方をご近所の方などと助け合って避難しましょう。また車での避難は、冠水で動かなくなったり、緊急車両の妨げになることがあるため避けましょう。



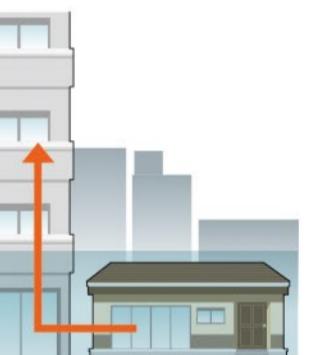
【避難時の注意点】

浸水の深さが高くなる前に早めに避難をするようにしましょう。外れたマンホールや側溝などの危険があるので、棒を杖代わりにするなど、安全に注意して避難しましょう。



【避難が困難なとき】

歩ける水の深さはひざ下程度までと言われており、それ以上浸水したときの避難はかえって危険です。やむを得ず避難所などへの避難ができない場合は、近くの頑丈な建物の上層階への避難、それも困難なときは家の中のできるだけ安全で高い場所に避難しましょう。



●洪水予報の発表基準

洪水予報の発表基準と避難情報の段階、及び各水位観測所の基準水位

| 洪水予報 | 発表基準 (避難情報の段階) | 益田市の洪水予報河川及び水位周知河川とその基準水位観測所 | | | | |
|---------------|---|------------------------------|-------|-------|-------|-------|
| | | 高津川 | 高津川派川 | 匹見川 | 白上川 | 益田川 |
| 氾濫発生情報(洪水警報) | 氾濫の発生 (氾濫の予報) (警戒レベル5相当) | | | | | |
| 氾濫危険情報(洪水警報) | 急激な水位上昇によりまもなく氾濫危険水位を超える、さらに水位の上昇が見込まれる場合、あるいは氾濫危険水位に到達した場合 (警戒レベル4相当) | 4.60m | 6.40m | 4.60m | 4.20m | 5.30m |
| 氾濫警戒情報(洪水警報) | 一定時間後に氾濫危険水位に到達が見込まれる場合、あるいは避難判断水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合 (警戒レベル3相当) | 4.20m | 5.90m | 4.20m | 3.70m | 4.40m |
| 氾濫注意情報(洪水注意報) | 氾濫注意水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合 (警戒レベル2相当) | 3.10m | 3.30m | - | 3.60m | - |
| | 水防団待機水位に到達 | 1.90m | 2.00m | - | 2.60m | - |
| | | 1.30m | | | | |

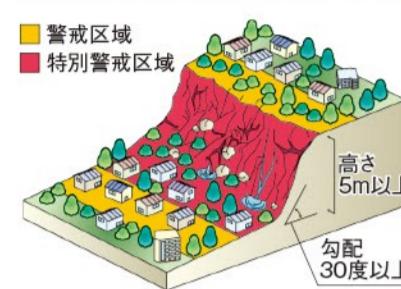


土砂災害から身を守る

● 土砂災害とは(種類と前兆現象)

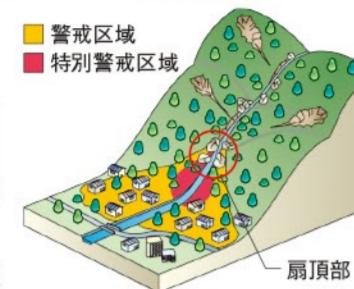
前兆現象を見つけたら直ちに市役所・自治会長などに連絡しましょう。また、危険を感じたら隣近所に声を掛け合って自主避難してください。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)



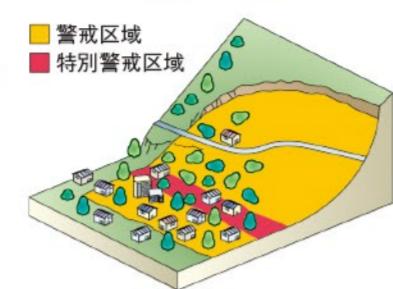
- ◆ がけに割れ目が見える
- ◆ がけから水がわき出している
- ◆ がけから小石がばらばらと落ちてくる

土石流

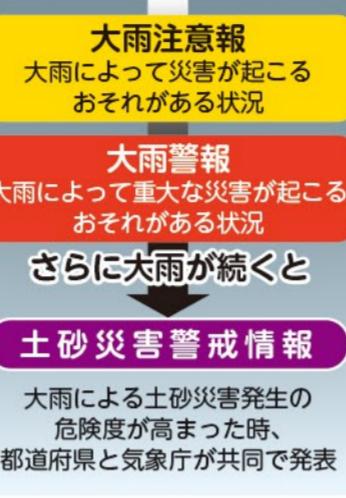


- ◆ 急に川の流れが濁り流木が混ざっている
- ◆ 山鳴りがする
- ◆ 雨が降り続いているのに川の水位が下がる

地すべり



- ◆ 沢や井戸の水が濁る
- ◆ 地面にひび割れができる
- ◆ 斜面から水が噴出する



土砂災害警戒情報

大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時、都道府県と気象庁が共同で発表



● 土砂災害の警戒区域

土砂災害警戒区域 (通称: イエローゾーン)

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

● 土石流の指定範囲

- ・土石流の発生のある渓流において、扇頂部から下流で勾配が2度未満になるまでの区域
- がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)の指定範囲
- ・傾斜度が30度以上で高さが5メートル以上の区域
- ・急傾斜地の上端から水平距離が10メートル以内の区域
- ・急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍(50メートルを超える場合は50メートル)以内の区域

土砂災害特別警戒区域 (通称: レッドゾーン)

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)の内側にあって、土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

● 避難時に注意すること

! まずは事前の確認

土砂災害から避難するためには、事前に危険箇所を確認し、災害の前兆現象を知っておくことが大切です。

防災ハザードマップを使って確認しておきましょう。

! 直角に逃げる

がけ崩れの前兆現象を見たら、斜面からできるだけ遠くに逃げましょう。土石流の場合は、土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようにします。

! 寝る場所にも注意

就寝中に発生する場合もあります。日頃から、がけから離れた谷側の2階の部屋に寝るなど土砂災害に備えましょう。

ため池災害から身を守る

● ため池と地域を守るための4つの行動目標

① ため池がどんな状況なのか 知ろう

ため池の状況(堤体の変形・漏水)を把握していますか。

堤体に陥没やひび、水がしみ出しているところや歩くと湿って柔らかくなつたところはありませんか?

堤体の立ち木や雑草は刈払いましょう。

堤体に草木が繁っていると、漏水やひび割れなどが発見にくくなります。

② 災害発生の危険性をいち早く 察知しよう

危険を知らせる気象情報を確認しましょう。

テレビ(データ放送)、ラジオ、インターネット、防災情報メールなどで、気象情報を確認しましょう。

大雨の前後や地震後には、異常がないか緊急点検を実施しましょう。

ため池の堤体に陥没やひび、水がしみ出しているなど異常がないか緊急点検しましょう。

③ 自らが判断して適切に 行動しよう

ため池の異常を発見した場合は、市に連絡し、応急対策を行いましょう。

異常を発見した場合は、市等に連絡するとともに、緊急放流や、シート掛けなどの応急対策を行いましょう。

ため池の決壊のおそれがある場合は、地域住民で助け合って行動しましょう。

決壊のおそれがある場合、周りの人伝え、安全な場所へ避難しましょう。

④ ため池が被災した場合の被害を軽減するため 備えよう

必要以上に水を溜めていませんか?

農耕状況の変化により、必要な水の量は減っていないませんか。水位を下げて、大雨や、地震による被害を軽減しましょう。

ため池が決壊した場合の避難について、地域住民で話し合い、災害に備えましょう。

避難場所や避難経路を確認し、連絡体制を整えましょう。

● 防災重点農業用ため池一覧

| ため池名称 | 所在地 | 掲載ページ | ため池名称 | 所在地 | 掲載ページ |
|-------|------------------|----------|-------|----------------|-------|
| 上大堤 | 西平原町505-11他 | 43、44 | 火ノ谷 | 横田町1156 | 40 |
| タカノス堤 | 津田町1403 | 45、47、48 | 雁丁堤 | 白上町イ571-1 | 32 |
| 平岩堤 | 山折町505-2、504 | 46、48 | 大堤下 | 上黒谷町1105 | 33 |
| 小山折堤 | 山折町28-乙、28-丙、477 | 46、48 | 大堤上 | 上黒谷町1093 | 33 |
| 本片子 | 遠田町467 | 43、44、47 | 向原堤 | 喜阿弥町イ1627 | 31、32 |
| 小神出 | 遠田町883、57-1 | 45、47 | 宮ヶ谷堤 | 戸田町イ838 | 31、32 |
| 新堤 | 遠田町827 | 45、47 | 溢頭池 | 戸田町イ1014番内1他 | 32 |
| 神出堤 | 遠田町621 | 45、48 | 西谷堤 | 戸田町シタケ尾 | 31、32 |
| 赤松堤 | 遠田町556、553 | 45、48 | 西ヶ迫 | 戸田町口195、口196 | 31、32 |
| 並良堤 | 遠田町1695、1697-1 | 45、47、53 | 佐々木堤 | 西平原町429-2 | 43、44 |
| 黒石堤 | 遠田町796 | 45、47、53 | 伏谷の堤 | 遠田町1301-8 | 45、47 |
| 四反田堤 | 遠田町2004 | 45、47 | 島本堤 | 川登町1230 | 39 |
| 大堤 | 下本郷町531-5 | 45、47 | 上堤 | 中垣内町113 | 33、34 |
| 荒巻堤 | 東町口599 | 45、47 | 亀ヶ迫 | 内田町イ215-1、イ216 | 37 |
| 蟠竜湖 | 高津町 | 37 | 堤郷池 | 美都町宇津川イ312-1 | 67 |
| 中堤 | 虫追町イ1018 | 39 | 大智寺池 | 美都町丸茂3042 | 58 |
| 上ヶ原堤 | 左ヶ山町口347 | 40 | | | 計33ヶ所 |

地震から身を守る

地震が起きた場合、いる場所や時間の経過とともにとるべき行動が変わってきます。大きな揺れを感じたら、まずは身の安全を守り、揺れがおさまってから行動しましょう。

また、強い揺れが来る前、あるいは強い揺れが来た後に、緊急地震速報が発表されます。緊急地震速報を見聞きしたときは、まわりの人に声をかけながら、周囲の状況に応じて、あわてず、まずは身の安全を確保しましょう。

緊急地震速報とは？

地震計でとらえたデータを解析し、到達時刻や震度を予想し、強い揺れが来る前に可能な限り早く知らせるシステム。

*震源に近いところでは速報が間に合わなかったり、予測された震度に誤差を伴う可能性があります。

予想震度4以上で

テレビ・ラジオ・携帯電話などを通じて発表



マグニチュードと震度

マグニチュードとは

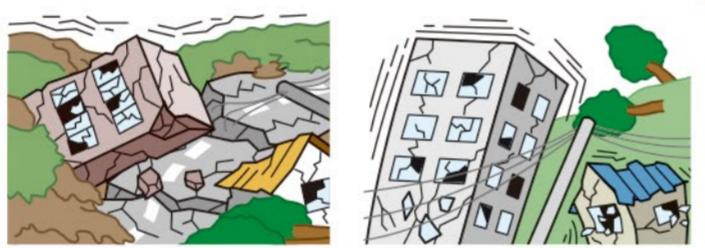
マグニチュード(以下Mと表記)は、地震の規模を表す単位です。関東大震災はM7.9、阪神・淡路大震災はM7.3、東日本大震災はM9.0(国内観測史上最大)でした。Mが0.2大きくなると地震のエネルギー規模は約2倍に、またMが1大きくなると約32倍になります。

震度6強の被害とは

益田市における「弥栄断層帯を震源とする地震」などによる最大震度6強の被害は、次のように想定されています。

震度6強

- はないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



自宅や建物内にいる場合

揺れを感じたら

火元を確認

- 揺れているときに火を消すのはナベなどが倒れて、ヤケドのおそれがあり危険。
- 揺れがおさまったらすべての火を消す。
- 避難するときはガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切る。



落ち着いて行動する

- 慌てて外に飛び出さない。
- 割れたガラスの破片などでけがをしないように運動靴等を履く。



出口を確保する

- 玄関や窓を開けて出口を確保する。

- 玄関や窓が再び閉まらないように、手近なものをはさみこんでおく。



揺れがおさまったら

家族の安否を確認

- 声をかけて家族の安否を確認する。
- 離れている家族とは、あらかじめ決めておいた方法で安否を確認する。(集合場所に集まる、災害用伝言ダイヤルの利用、親戚への伝言など)



正しい情報を入手する

- テレビやラジオ、防災行政無線などから正しい情報を入手する。
- デマやうわさに惑わされない。

近所の人の安否を確認

- 近所の人に声をかけて安否を確認する。
- 身体の不自由な方やお年寄りには特に注意を払う。
- マンションの場合は、エレベーターに人が取り残されていないか確認する。



みんなで避難

- なるべく複数人で集まって避難する。



外出先にいる場合

揺れを感じたら

道路・路地

- ブロック塀や自動販売機、電柱など転倒・倒壊のおそれがあるもののそばから離れる。
- 窓ガラスや看板などの落下物に注意し、頭をカバンなどで保護する。



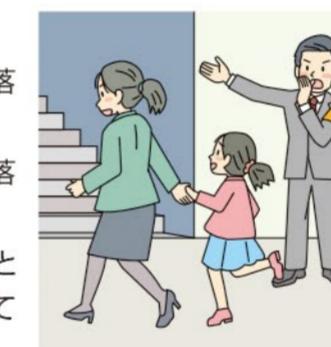
繁華街・大きな建物

- 商品棚から離れ、柱や壁際に身を寄せせる。
- 最新のビルや地下街は、耐震性が高いので、無理に外には出ない。
- 店舗では場内放送や係員の指示に従って行動する。



地下街

- 停電時は、非常照明がつくまで落ち着いて待つ。
- 館内放送や係員の指示に従い、落ち着いて避難する。
- 火災発生時は、ハンカチなどで口と鼻を覆い、壁伝いに這うようにして移動する。



エレベーター内

- すべての階のボタンを押し、最初に停止した階で降りる。
- 閉じ込められた場合は、非常用電話で助けを求める。



運転中

- 徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車してエンジンを切る。
- 揺れがおさまるのを待ち、カーラジオ等で情報入手する。
- 避難するときはキーはつけたままにし、ドアをロックしない。



電車・バス

- 立っている場合はつり革、手すりにつかり、緊急停車・急ブレーキに備える。
- 座っている場合は姿勢を低くして頭部を守る。
- 乗務員の指示に従う。



津波から身を守る

旅行先など海岸や海に近い場所で地震を感じたら、揺れへの対応に加え、津波に注意しましょう。

- 「強い揺れ」や「弱くても長い揺れ」を感じたり、「津波警報」「津波注意報」を見聞きしたら、すぐに避難を始め、高台や避難ビルなど安全な場所へ避難しましょう。
- 津波は何度も発生し、あとから来る津波の方が高くなることがあります。
- 「津波警報」「津波注意報」が解除されて安全が確認されるまでは、決して海岸に近づかないようにしましょう。
- あらかじめ「津波避難場所」や「津波避難ビル」の場所、高台などへの経路を確認しておきましょう。

津波標識の種類



津波注意



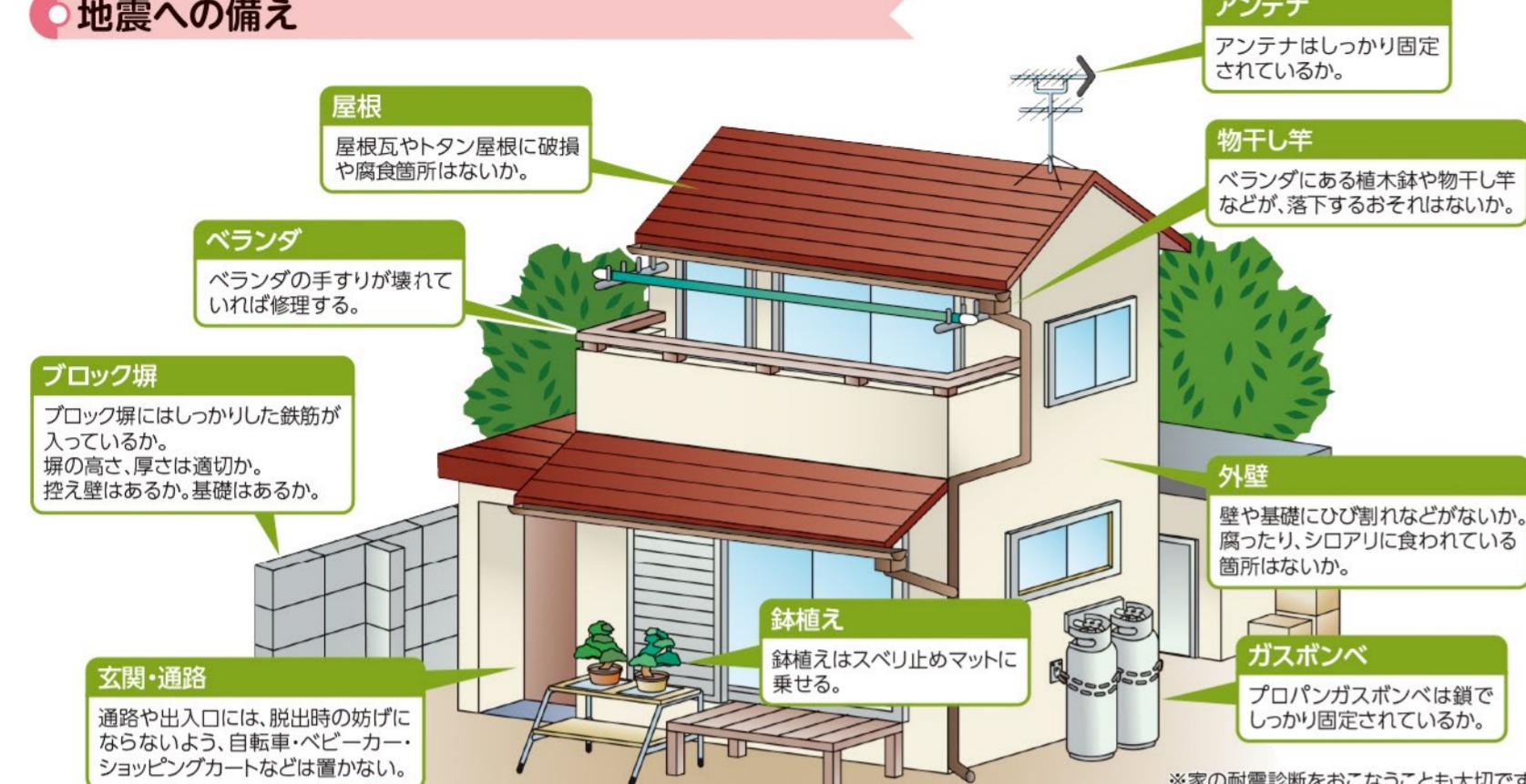
津波避難場所



津波避難ビル

地震から身を守る

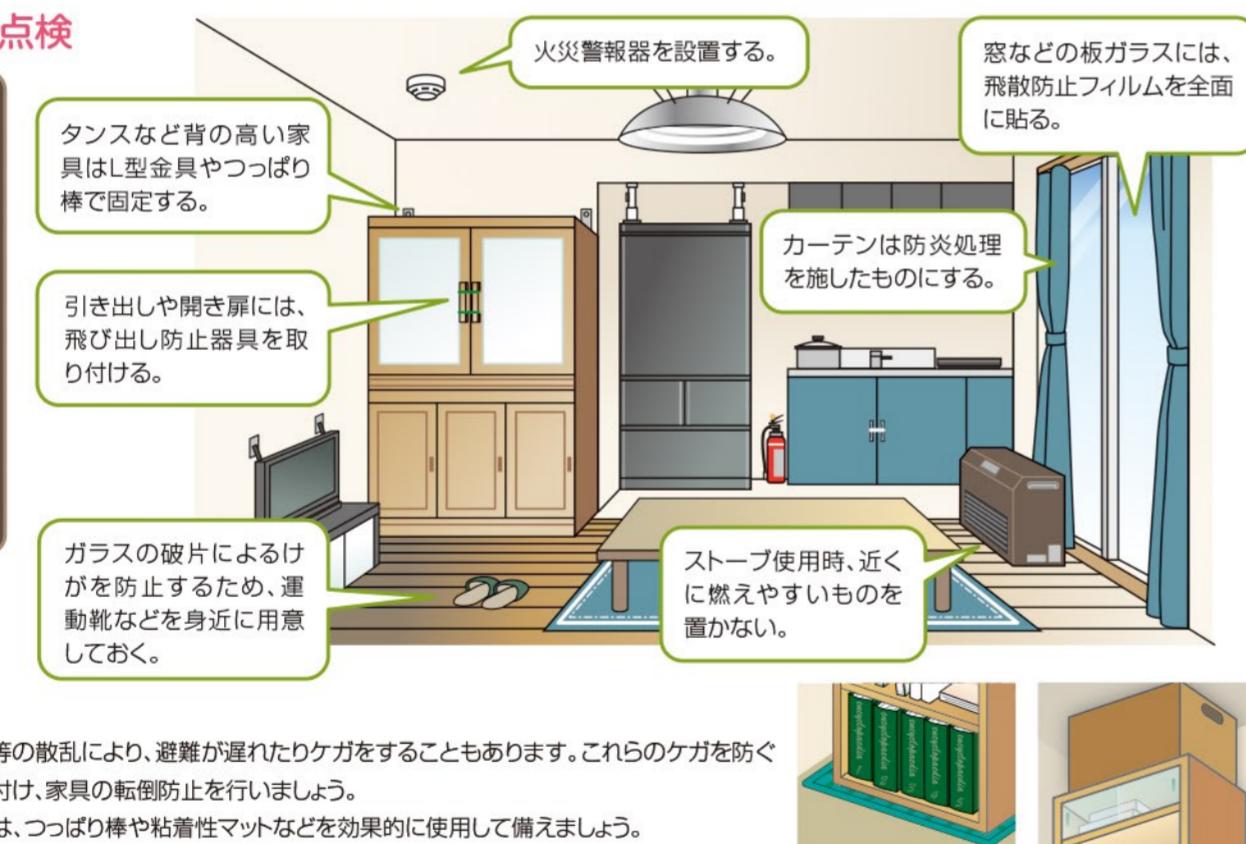
●地震への備え



●災害に備えて屋内を点検

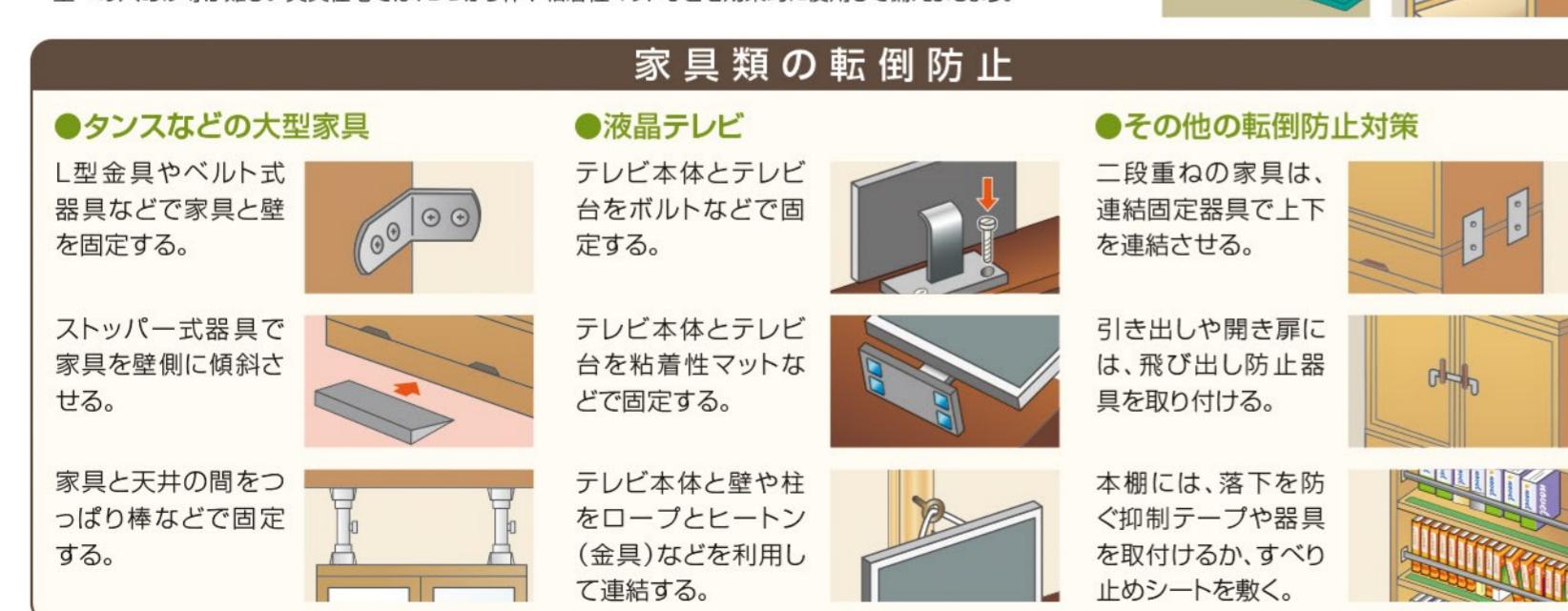
安全のために、以下のようなことも大切です。

- 大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置くようにする。
- 玄関や廊下に家具や荷物を置かない。(避難時の妨げになる。)
- 高齢の方や子供のいる部屋や寝室には、倒れやすい家具は置かない。



●家具類の安全対策

大きな地震では、家具の転倒や食器等の散乱により、避難が遅れたりケガをすることもあります。これらのケガを防ぐために、自宅の家具にL字金具等を取り付け、家具の転倒防止を行いましょう。



火災対策

●防火のチェックポイント

| 放火 | たき火・草焼き | 電気器具 |
|---|---|---|
| <input type="checkbox"/> 家の周囲に燃えやすいものを放置しない | <input type="checkbox"/> 風が強い日、空気が乾燥しているときは、たき火や草焼きをしない | <input type="checkbox"/> たこ足配線はない |
| <input type="checkbox"/> 車庫や物置には鍵をかける | <input type="checkbox"/> 消火用の水を用意し、周囲の安全を確認する | <input type="checkbox"/> 傷んだコードやコンセントはすぐ修理・交換する |
| <input type="checkbox"/> ゴミは収集日の朝、決められた場所に出す | <input type="checkbox"/> 終わるまでその場を離れず、必ず消火の確認をする | <input type="checkbox"/> 取扱い説明書をよく読み正しく使う |
| コンロ | 火遊び | たばこ |
| <input type="checkbox"/> 油を使った料理の際は火のそばを離れない、離れるときは必ず火を消す | <input type="checkbox"/> マッチやライターを子どもの手の届くところに置かない | <input type="checkbox"/> 投げ捨て、寝たばこは絶対しない |
| <input type="checkbox"/> コンロの周りに燃えやすいものを置かない | <input type="checkbox"/> 周囲に燃えやすいものを置かない | <input type="checkbox"/> 灰皿に水を入れる |
| ストーブ | 完全に消火してから給油する | <input type="checkbox"/> 吸いしを残したままその場を離れない |
| <input type="checkbox"/> ストーブや電気器具で洗濯物を乾かさない | <input type="checkbox"/> 普段から子どもに火の恐ろしさと正しい使い方を教える | <input type="checkbox"/> ごみ入れに吸いがらを捨てない |

●火災が起きたら

万が一火災が発生してしまったら『あわてず、騒がず、落ち着いて』行動しましょう。

①早く知らせる!

火災を発見したら大きな声で『火事だ!』と叫びましょう。小さな火事でも消えかけてくすぶっている場合は速やかに119番通報をしてください。

②早く消火する!

火災は発見が早ければ早いほど消火が簡単です。出火から3分以内が勝負です。まだ小さな火のうちなら水や身の回りの物、消火器などで十分消火可能です。

消火器の使い方

- 黄色いピンを引き抜く
ピンを抜かないとレバーが動かない構造になっています。
- ホースを外し、火元に向ける
炎や煙にまどわされず燃えている物に向けてください。勢いよく粉末が出ますのでしっかりと握りましょう。
- レバーを握って消火粉末を噴射する
粉末が噴射される距離は約5m程度、時間は約10秒～15秒です。



③早く逃げる!

避難する時に恐れや焦り、迷いは禁物です。避難を決めたら再び中には戻らない。服装や物にはこだわらないで逃げることだけを考えてください。火災で恐ろしいのは炎と同時に煙です。有毒ガスが含まれていて吸い込むと中毒死や動けなくなってしまいます。煙を吸わないよう姿勢を低くして避難しましょう。

●通電火災を防ぐ

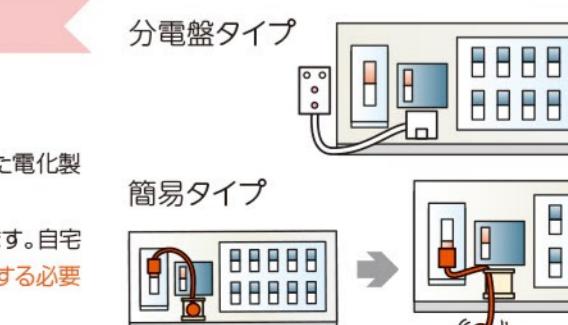
近年の大規模な地震の際に発生した火災は、電気による出火が大きな割合を占めています。通電火災を防ぐため、避難するときは必ず電気のブレーカーを切りましょう。感震ブレーカーは、強い揺れを感じると自動的にブレーカーを落として電気を止める機器です。破損した電化製品の電気配線が通電時に発火して発生する「通電火災」を防ぐことができます。感震ブレーカーには、右記のようなブレーカーで遮断するもの他に、コンセントで遮断するものがあります。自宅の環境に応じて選択しましょう。また、感震ブレーカーを設置する際は、停電時に点灯する非常用電灯を設置する必要があります。

| 119番のかけ方 | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| ▼火事の場合 | ▼救急の場合 |
| ①:[119番]田消防です。火事ですか? 救急ですか? | ②:[火事です!] ③:[救急です!] |
| ④:[住所はどこですか?]「近くに何(建物など)がありますか?」 | ⑤:[益田市○○町○○番地です]「○○が近くに見えます」 |
| ⑥:[何が燃えていますか?] | ⑦:[どうされましたか?] |
| ⑧:[台所が燃えています] | ⑨:[頭が痛いです] |
| ⑩:[逃げ遅れやけがをした方はいませんか?] | ⑪:[かかりつけの病院はありますか?] |
| ⑫:[全員避難して無事です] | ⑬:[○○病院です] |
| ⑭:[最後にあなたの名前とおかけの電話番号を教えて下さい] | ⑮:[○○○○○です。電話番号は○○-○○○○○です] |
| ⑯:[はい、わかりました。消防車(救急車)が来たら誘導をお願いします] | ⑰:[はい、わかりました。消防車(救急車)が来たら誘導をお願いします] |

| 応急手当・AED | | | |
|----------|----|----|-------|
| やけど | 出血 | 骨折 | 意識がない |
| 水で冷やす | 止血 | 固定 | 心肺蘇生法 |

| 突然人が倒れた場合 | |
|---------------------|--|
| ①意識の有無を確認 | |
| ②周囲の人に119番通報とAEDの用意 | |
| ③呼吸の確認 | |
| ④胸骨圧迫(心臓マッサージ)30回 | |
| ⑤人工呼吸2回 | |
| ⑥AEDの使用 | |

あなたの勇気ある行動が大切な命を救います!



避難行動について

●災害警戒レベルとるべき避難行動

○警戒レベル4は全員避難!

水害・土砂災害時に住民がとるべき避難行動が、その切迫度に応じて警戒レベル1～5に区分されています。市や気象台から出される警戒レベルと、自らの命を守るためにとるべき避難行動をしっかりと知っておくこと、そして避難のタイミングを逃さないようにするこことが重要です。

○5段階の警戒レベルと避難行動

| 気象状況 | 気象庁等の情報 | | | 警戒レベル | 避難情報(益田市が発令) | 市民の皆さんがとるべき行動 |
|---------------|------------------|--------|-----------|-------|--------------|--|
| 数十年に一度の大霖 | 大雨特別警報 氾濫発生情報 | 氾濫 | 土砂キキクル(黒) | 5 | 緊急安全確保 | <ul style="list-style-type: none">●災害がすでに発生しています●命を守るための最善の行動をとりましょう |
| レベル5相当 | | | | | | |
| △警戒レベル4までに避難 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 大雨の数時間前～2時間程度 | 土砂災害警戒情報 | 氾濫危険情報 | 土砂キキクル(紫) | 4 | 避難指示 | <ul style="list-style-type: none">●速やかに避難先へ避難しましょう●避難場所までの移動が危険と判断した場合は、近くの安全な場所や自宅内より安全な場所へ避難しましょう |
| レベル4相当 | | | | | | |
| 大雨の半日～数時間前 | 大雨警報 洪水警報 | 氾濫警戒情報 | 土砂キキクル(赤) | 3 | 高齢者等避難 | <ul style="list-style-type: none">●避難に時間を要する人(高齢者・障がいのある人・乳幼児等)とその支援者は避難しましょう●他の人は避難の準備を整えましょう |
| レベル3相当 | | | | | | |
| 大雨の数日～約1日前 | 大雨注意報 洪水注意報 | 氾濫注意情報 | | 2 | — | <ul style="list-style-type: none">●避難に備え、ハザードマップ等から自分がとるべき避難行動を確認しましょう |
| レベル2相当 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 大雨の数日～約1日前 | 早期注意情報(警報級の可能性) | — | | 1 | — | <ul style="list-style-type: none">●気象庁が発表する注意情報等を確認するなど、災害への心構えを高めておきましょう |
| レベル1相当 | | | | | | |

*気象状況の急激な変化によっては、いきなり大雨警報が発表されたり、避難指示が発令されることもあります。

- 警戒レベル3や4が出たら、**危険な場所から避難**しましょう。
- 「避難」とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人は、避難する必要はありません。
- 避難先は小中学校・公民館だけではありません。安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。

●命を守るためにの自主避難

明るいうちに

夜間の避難は危険!

大雨や津波、高潮などのピークが夜間になることが予測される場合は、明るいうちに自主避難を。

大雨になる前に

大雨の中の避難は危険!

台風や集中豪雨が予想される場合は、道路の冠水などによる避難経路の遮断を想定し、早めの自主避難を。

高齢者等は早めに

迅速な避難が難しい!

避難に時間がかかるため、早めの行動が大切。近所に高齢者や配慮の必要な方がいたら、声をかけて避難に協力を。

避難するときは

- 近所で声を掛け合って避難する。
- 車はなるべく使わない。
- 道路が水で隠れてしまったところは歩かない。

避難時の服装

- 頭部を護るもの
- 目立つ色のレインコート
- 運動靴
- ※長靴は水が入ると歩きにくくなる
- 手袋



●ハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう

○「自らの命は自らが守る」意識を持ち、

自宅の災害リスクとるべき行動を確認しましょう。

平时に確認

避難行動判定フロー

●あなたがとるべき避難行動は?

ハザードマップ^{※1}で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。



家がある場所に色が塗られていますか?

いいえ

色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。



災害の危険があるので、原則として^{※2}、自宅の外に避難が必要です。

例外

※2 ①浸水の危険があっても、
・洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である。
・浸水する深さよりも高いところにいる。
・浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食料などの備えが十分にある場合は自宅に留まり安全確保をすること。
②土砂災害の危険があっても、
・十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか?



はい



いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?



はい



いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?



はい



いいえ

警戒レベル3が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう。(日頃から相談しておきましょう)

警戒レベル3が出たら、市が指定している**避難所や避難場所に避難**しましょう。(日頃から相談しておきましょう)

警戒レベル4が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう。(日頃から相談しておきましょう)

警戒レベル4が出たら、市が指定している**避難所や避難場所に避難**しましょう。

出典：内閣府「避難情報に関するガイドライン」より

防災情報について

災害が発生したり、発生するおそれがある場合に、市は避難に関する情報を発令します。

また、災害情報や気象情報はテレビやラジオ、各防災関係機関のホームページ等で確認できるので、日頃から情報の入手方法で確認するようにしましょう。

●防災情報の入手先

○益田市からの情報

| 情報発信手段 | 内 容 | |
|-------------------------------------|---|--|
| 防災行政無線 | 市内に設置している益田市防災行政無線のスピーカーにより情報を伝えます。普段は、夕方のチャイム(夕焼け小焼け)を試験放送として流しています。 | |
| 緊急防災放送装置(告知放送端末) | 各家庭の室内に設置している緊急防災放送装置(告知放送端末)から情報を伝えます。普段は、毎日6時30分と20時55分の定時に益田市からのお知らせ放送を流しています。また、ラジオ放送を聞くことができます。 | |
| 益田市安全・安心メール | 気象警報、避難情報などの防災情報や防犯情報等、市民の安全・安心に関する情報を提供します。事前にご登録いただいた携帯電話やスマートフォン、パソコンのEメールアドレスに情報を配信します。 登録は「bousai.masuda-city@raiden3.ktaiwork.jp」に空メールを送信し、返信された登録用メールの内容に従って登録してください。 | |
| 緊急速報メール(エリアメール) | 対象エリアにいる方の携帯電話及びスマートフォン(NTTドコモ、KDDI(au)、ソフトバンク、楽天モバイル)へ一斉配信します。 ※詳しくは16ページ参照。(事前登録は必要ありませんが、受信設定が必要となる場合があります。) | |
| 益田市ホームページ 公式SNSアカウント 益田市防災アプリ | 災害情報や避難情報などを随時お知らせします。 | |

○島根県からの情報

| 情報発信手段 | 内 容 | |
|----------------------------------|--|--|
| 島根県ホームページ(しまね防災情報) しまね防災情報 検索 | 気象情報、雨量・水位情報、土砂災害情報などの防災情報が公開されています。 | |
| しまね防災メール | 気象注意報・警報、地震・津波情報、また、島根県からの緊急情報など、基本情報が配信されます。事前にご登録いただいた携帯電話やスマートフォン、パソコンのEメールアドレスに情報を配信します。 登録は「register@bousai-shimane.jp」に空メールを送信し、返信された登録用メールの内容に従って登録してください。 | |

○その他の防災関係機関からの情報

| 情報発信手段 | 内 容 | |
|----------------------------------|--|--|
| 国土交通省ホームページ(川の防災情報) 川の防災情報 検索 | 全国の河川の雨量や水位、リアルタイム映像などの情報が公開されています。 | |
| 気象庁ホームページ(防災情報) 気象庁防災情報 検索 | 全国の天気や防災情報が公開されています。 ・気象警報・注意報 ・危険度分布(土砂災害、浸水害、洪水) ・台風情報(台風) ・レーダー・ナウキャスト(降水、雷、竜巻) ・雨雲の動き「高解像度降水ナウキャスト」(雨量情報)など | |

○データ放送や防災アプリ

| 情報発信手段 | 内 容 | |
|-------------|---|--|
| テレビによるデータ放送 | テレビのdボタンを押すとデータ放送が閲覧できます。市内の時間降水量や発表されている注意報、警報、避難所の開設状況などが表示されます。テレビ局によって表示内容が異なりますので、平時からご確認ください。 | |
| 防災アプリ | 一部の携帯電話では、緊急地震速報やエリアメール、緊急速報メール等が受信できない場合があります。もし、受信できない場合でも、スマートフォンにYahoo!やNHK等が提供する防災アプリをインストールすれば、あわせて避難情報や気象情報等も確認できます。 | |

○緊急速報メール・エリアメール

緊急速報メール(KDDI(au)、ソフトバンク、楽天モバイル)・エリアメール(NTTドコモ)は、気象庁が発表する緊急地震速報などや、国や市町村などが発表する災害・避難情報、国土交通省が発表する指定河川洪水予報を、対象エリアにいる携帯電話・スマートフォンの利用者に一斉発信するサービスです。

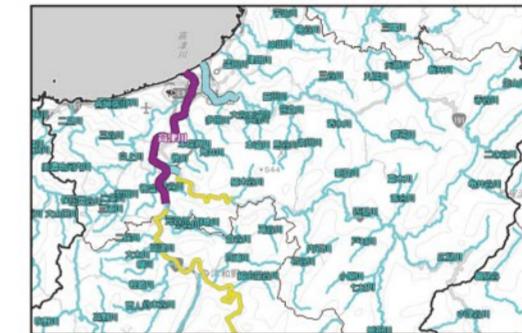
使用料金や通信料などは無料ですが、一部の機種ではあらかじめ受信設定を行っておく必要があるほか、緊急速報メール・エリアメールに未対応の機種もあるので、自分の携帯電話・スマートフォンが受信可能な設定になっているかを確認しておきましょう。

○危険度分布(キキクル)の利用

大雨により命が奪われる危険性がある場所で、怖いと感じるような雨が降ってきたり、テレビなどで警報・注意報が発表された場合、危険度分布を確認することで、今自分がいる場所から避難する必要があるのかどうかを一目で把握できます。

○洪水警報の危険度分布(洪水キキクル)

洪水警報の危険度分布は、大雨による中小河川の洪水災害発生の危険度の高まりを5段階に色分けして地図上に示したものです。洪水警報が発表されたとき、どこで危険度が高まっているか把握することができます。



緊急速報メール・エリアメールの特徴

- 配信されると専用の警報音が鳴る
- 携帯電話・スマートフォンの画面にメッセージを表示

配信される内容

- | | |
|--------------|-----------|
| 【気象庁】 | 【国、市町村】 |
| ・緊急地震速報 | ・災害・避難情報 |
| ・津波警報 | 【国土交通省】 |
| ・気象等に関する特別警報 | ・指定河川洪水予報 |



洪水災害の危険度

| | |
|-------------|----------------|
| ■ 高 | 災害切迫【警戒レベル5相当】 |
| ■ 危険 | 【警戒レベル4相当】 |
| ■ 警戒 | 【警戒レベル3相当】 |
| ■ 注意 | 【警戒レベル2相当】 |
| ■ 今後の情報等に留意 | |
| ■ 指定河川洪水予報 | |
| ■ 洪水キキクル | (洪水警報の危険度分布) |

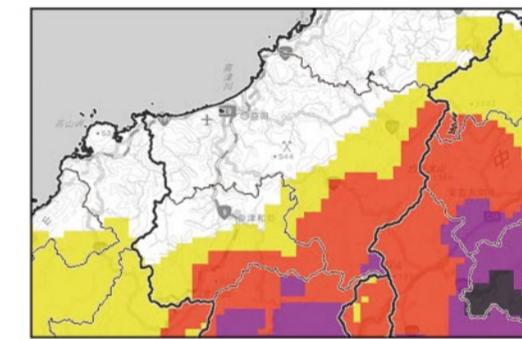


土砂災害の危険度

| | |
|-------------|----------------|
| ■ 高 | 災害切迫【警戒レベル5相当】 |
| ■ 危険 | 【警戒レベル4相当】 |
| ■ 警戒 | 【警戒レベル3相当】 |
| ■ 注意 | 【警戒レベル2相当】 |
| ■ 今後の情報等に留意 | |

○大雨警報(土砂災害)の危険度分布(土砂キキクル)

大雨警報(土砂災害)の危険度分布は、大雨による土砂災害発生の危険度の高まりを、地図上で1km四方の領域(メッシュ)ごとに5段階に色分けして地図上に示したもので、概ね雨は西から東へ移動します。今、色がついていないからといって安心せず、何度も繰り返しチェックすることが大切です。



○災害時の連絡方法

○災害用伝言ダイヤル(171)

災害時には、安否確認、問い合わせなどの電話が急増し、電話がつながりにくい状況が続くときがあります。そのような時、この「NTT災害用伝言ダイヤル」を使って、家族や知人に伝言を録音したり、相手方の伝言を再生することができます。

- 「171」をダイヤルし、利用ガイドにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。(右図参照)
- 「災害用伝言ダイヤル」に登録できる電話番号は、被災地内の固定電話番号及び携帯電話・PHS・IP電話の電話番号です。被災地内からご利用の場合も固定電話番号は必ず市外局番からダイヤルしてください。
- 録音された伝言は、電話番号を知っているすべての人が聞くことができます。
- 提供開始や録音件数等、提供条件についてはNTTで決定し、テレビ・ラジオなどでお知らせします。



NTT西日本 web171
<https://www.web171.jp/>



○災害用伝言板(web171)

災害時にインターネットから「災害用伝言板(web171)」にアクセスし、文字情報で安否情報の登録、確認ができます。

災害用伝言ダイヤル「171」
・毎月1日及び15日
・正月三が日(1月1日～1月3日)
災害用伝言板(web171)
・防災とボランティア週間(1月15日～1月21日)
・防災週間(8月30日～9月5日)
体験利用提供日
※伝言録音時間：30秒
伝言保存期間：体験利用期間終了まで
伝言蓄積数：電話番号あたり20伝言

○災害用伝言板(携帯電話・スマートフォン)

震度6弱以上の地震などの大きな災害が発生した時に、携帯電話などをを利用して自身の安否情報の登録、家族や友人の安否情報を確認することができます。

避難生活について

● 避難生活

大規模な災害が発生した場合、自宅または市が開設する避難所で避難生活を送ることになります。

在宅避難

発災後など自宅で住み続けることが可能な場合、自宅で生活を送ることが基本となります。平常時に備蓄していた食料、飲料水、携帯トイレ等で生活を送ります。



避難所への避難

自宅を離れて避難所で生活することは、慣れない避難生活となることからストレスや過労などにより体調を崩してしまうことも考えられます。少しでも負担を減らすため避難所では決められたルールを守り、避難生活者同士で協力して支え合うことが大切です。



● 避難所生活の心得

生活ルールを守りましょう

- 起床や就寝の時間、トイレの使い方、喫煙場所など避難所のルールを守りましょう。
- ほかの人の居住スペースに立ち入ったり、のぞいたり、大声をあげたりするのはマナー違反です。



食物アレルギー等の方々

- 日頃から自分が食べられる食料を備蓄しておくようにしましょう。
- 被災したときに食物アレルギーであることが周りの人に分かってもらえるように工夫しましょう。



役割分担して運営に参加しましょう

- 避難者もできる範囲で、受け付けや清掃、炊き出し、物資の配布など役割分担をしましょう。
- 助け合いながら避難所運営に参加しましょう。



犯罪に気をつけましょう

- 避難所では窃盗や詐欺、性犯罪、押し売りなどの犯罪に注意して、怪しい人を見かけたら、警察官や施設担当者に連絡しましょう。



女性の方々

- 更衣室の利用方法、衣類や生理用品・薬などの物資の配布、女性専用の洗濯場所やトイレなど、女性への配慮が必要です。避難所の運営などに女性の意見を活かしていくことが重要です。



要配慮者への心掛け

- 高齢の方や小さなお子さん、障がいのある人などに配慮し、多くの人が少しでも心地よく過ごせるよう、避難者同士で声を掛け合って助け合いましょう。



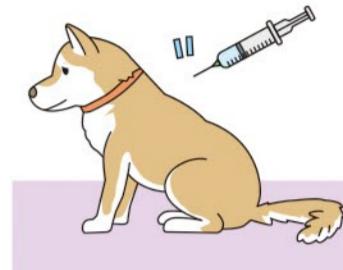
● ペットの災害対策

いざというとき、ペットを守ることができるのは飼い主だけです。

ペットを飼っている方が避難する場合は、ペットと一緒に避難することが基本です。ともに安全に避難でき、周りの人へ迷惑をかけず、安心して過ごすためには、日頃からの心構えと備えが大切です。

健康管理

普段から健康管理に注意し、体を清潔に保ちましょう。



必ずしていただきたいこと

- 飼い主の登録
- 狂犬病予防注射(毎年1回)

日頃からしていただきたいこと

- ノミやマダニの駆除
- 各種予防接種

しつけ

災害時は環境の変化からペットが強いストレスを感じ、普段と違う行動をとることがあります。他人に迷惑をかけないことと、ペットのストレス軽減のため、日頃から必要なしつけを行いましょう。

必要なしつけ

- キャリーバッグやケージに慣らしておく。
- 犬の場合は「マテ」「オイデ」ができる。
- むやみに吠えないようにする。
- 決められた場所で排泄ができる。
- 人や動物に慣らしておく。
- 様々な音や物に慣らしておく。



ペットの避難

指定避難所への同行避難

益田市では、指定避難所への避難の場合、飼い主とペットの同行避難を原則としています。

同行避難は、ペットと同じ場所にいられることではなく、指定避難所内のペットの専用スペースで飼い主が持参したケージで滞在させることです。



指定避難所以外への避難

不特定多数の人が集まる避難所では、ペットは強いストレスを感じてしまいます。また、動物が苦手な方や、動物アレルギーの方への配慮が必要となります。

大切なペットを守るため、可能な限り親戚や友人宅、ペットホテルなどの指定避難所以外の安全で安心できる避難先の検討をお願いします。

ペット防災手帳

災害時に、ペットと一緒に避難するためには、日頃からの準備が重要です。手帳にペットの情報をあらかじめ記入しておき、災害時にいつでも持ち出せるようにしましょう。

